

第9号
平成22年3月

北野町連だより

発行者
北野地区町内会連合会
会長 濱田 英彦写真で振り返る!
平成21年度の活動

<総会で濱田会長のあいさつ>



<新役員の紹介>

組織・会議

当町連では、四月に総会を開催し、年度方針・事業計画・新役員等を決定して出発します。具体的な執行は、年六回の理事会を開催し、慎重に審議決定して運営しております。

安心・安全

安全で安心して暮らせるまちは、地域みんなの願いです。当町連では、関係機関とも連携を図りながら、交通安全や防犯・防災など様々な活動に取り組んでいます。特に、防災については、「防災研究会」準備委員会を立ち上げ、検討を進めてきました。



<子どもたちと地域の人人が合同で>



<交通指導員さん>



<出前講座－準備委員会主催>



<準備委員会メンバー>



<スクールガードの方々>



消火栓除雪



みんなそろって書きぞめ大会

町内会連合会
会長 濱田英彦

自治活動に対する最高の荣誉「札幌市自治振興功労者」に、町内会連合会の副会長木村さんが清田区から選ばれました。三十年にわたる交通安全を主とした地域の安全活動に対する市長表彰です。

皆様共々お祝いを申し上げたいと思います。今後とも、ますますお元気でご活躍くださるよう祈念いたします。

「おめでとう、木村信也さん」

福祉・子育て



<子育てサロン ポムポムタイム>



<子育てサロン クリスマス会>



<子育てまつり>

子どもは社会の宝物として地域のみんなで育てることが大切です。また高齢化が進む中、一人暮らしのお年寄りの方々に夕食の宅配も行っています。その中心は、「福祉のまち推進センター」が担っております。



<心あたたまる弁当づくり>



<小学生除雪ボランティア>

ふれあい



<ふれあい夏まつり よさこい>



<ふれあい夏まつり 花火大会>



<新春かるた大会>

「北野に住んでよかった」と、みんなが思えるような地域にするために、様々なふれあい行事が催されております。特に、ふれあい夏まつりや青少年音楽のひろばは大へん盛り上りました。

北野地区には厚別川と吉田川があり、美しい自然を大切にしようと、様々な環境保全活動が小・中学生も参加して行われました。



<厚別川草刈・清掃開会式>



<吉田川清掃>



<ヤマベ稚魚放流>



<北野小学校>



<北野台小学校>



<北野平小学校>



<北野中学校>



<雨でもぎわった ふれあい夏まつり>



<厚別川河川敷を歩く集い>

環境

北野けいじ板

朝 日ヶ丘町内会、第3回介護予防事業「きたのくらぶ in 朝日ヶ丘」開催 平成21年11月16日、25名の参加者は、『楽しい老後のために』と題して“認知症”や“転倒防止”について真剣に学びました。

講師は、清田区介護予防センター北野・平岡の芳岡センター長に務めて頂きました。



参加者と芳岡講師（左から4人目）



祝杯で懇親がスタート（音頭小関元会長）

平成22年1月10日、恒例の新年交礼会を当町内会館で開催しました。参加者は80名を超える、年始の会長挨拶・懇親・ゲームと楽しい時間を共有して平成22年をスタートしました。

今年は、音楽家水木様を迎えてお正月気分を盛り上げて頂きました。



八 望台町内会恒例となっている、新年交礼会も急速に高齢化が進む中での開催。人数も例年と変わらない参加を見ましたが、今年は、若年層の参加が増え、そろそろ世代交代の時期なのかなと嬉しくもあり、昨年の顔が見えない部分、一寸寂し

さも感ずる交礼会でした。毎年少しづつ趣向を変え、みんなで楽しく遊びながら交流を深める場として、実施しております。途中で退席する人も無く盛会の内に終了しました。

今年は、オアシス運動を軸に、地域交流を深める取り組みをして参ります。



参加者のみなさん

「安心・安全・住み良い町づくり」を目指して



北野団地自治会
会長 大野 俊策

私たちが住む北野団地自治会を組織する北野団地は、昭和45年11月北海道住宅公社による412戸の分譲住宅団地として発足しました。入居時は札幌市内への交通の便は「旧町界」行きの中央バスが1時間に1本、小・中学校までは徒歩30分以上を要するという不便な地域でした。その代わり自然に恵まれ、周囲は山菜の宝庫でもありました。以来、歴代の自治会役員の献身的な尽力もあって、バスが増便され、上下水道も整備されました。昭和55年には近隣に小学校が設置され、翌年には中学校も設立されるなど生活環境は次第に整い、昭和57年には徒歩10数分で地下鉄を利用できるようになって、交通機関へのアクセスも便利になりました。現在、団地の周りには、幼稚園も保育園もあり、スーパーマーケット、銀行、そして、消防署の出張所や郵便局まである生活環境に恵まれた住み良い地域です。

しかし、入居以来40年の歳月により、今や住民の高齢化が課題となっています。約400戸の住宅の集まりの中に80歳以上の高齢者が150人を超える状況の中では、かつて、運動会や盆踊りに新しい住処（すみか）への情熱を注いだ住民は、老老介護と真剣に取り組まなければならない時代となっています。

それでも、北野会館屋上で時を告げる「希望の鐘」は40年の歳月を刻んで、今日も静かに団地内に流れています。



青空パーティ

編集委員会
長
アドバイザー
まちゼン所長
朝日ヶ丘町内会
北野団地自治会
八望台町内会
西北野町内会
木酒村井
赤坂田葉崎
信也泰

第九号は一年を振り返る写真集です。四頁に北野地区的古老のお話の連載を始めました。次号に向けて話題・写真などありますからお寄せ下さい。おまちいたしております。

編集後記

古巻をたずねて①

この地の住民になって



篠出嘉依
(明治43年生、南北野在住)

どうも私の家族は、大正3年にこの地に辿りついた様だ。私の記憶も百歳を超えるとそこぶる怪しくなっている。多分私が5歳位で平岡から水田を求めて来た様である。当時、厚別（あしりべつ）は小学校しかなく高等小学校は月寒まで通った。道は細く砂利道で今の葵交通の前あたりは、馬も一度止まって登る程の急勾配で事故も多かった。家の前には霜踏山という山があり、戦時後期にはこの山に防空壕を掘り軍隊が無線基地として利用していたが、今ではあの山の殆んどが現コカ・コラ用地の埋め立てで消えてしまった。昔から北野の皆さんには団結力があり、昭和19年に月寒から電気を引いてこれる様になるのだが、電線が不足していて、自分達で秋葉原までその調達を行ったのも思い出される。地域の面積の約半分が水田であったが、厚別川（あしりべつ川）の清流のお陰で非常に美味しい米が採れ、札幌の寿司米として売れたのも自慢だったかもしれない。農業を営むうえでは決して条件の良い處では無かったが、皆さんが力を合わせて種々（いろいろ）な挑戦もした。果樹を植えたり、家畜を飼ったり、冬山造材に出る人もあり、皆血の滲む思いで頑張って来たと思う。

戦後少し落ち着いて来た頃、今の「牛角」の向かいに雑魚を煮つめて飼料や肥料を造る工場が進出して來た。初めは良かったが夏場を超えると、これから出る臭いが極付き（きわめつき）のものであり、通年続く様になった。正に臭い公害に襲われたのだ。権利関係も強くなりつつある時、地域一丸となって移転交渉に当たりこれをついに成就させた。

村を思う気持ち、故郷を大事にする心が運動を起こさせたと思う。今は良い街になったが、この様な縁（つながり）は大切にして欲しいと思うものである。

（息子ききとり代筆）



交通安全は家庭から！